

# 平成22年度 全国学力・学習状況調査

## ～子どもたちの傾向 調査結果から～



### ◆全国学力・学習状況調査

文部科学省（以下、文科省）は平成19年度から、子どもたちの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を実施しています。これは義務教育の機会均等とその水準を維持向上させる観点から実施されるものです。

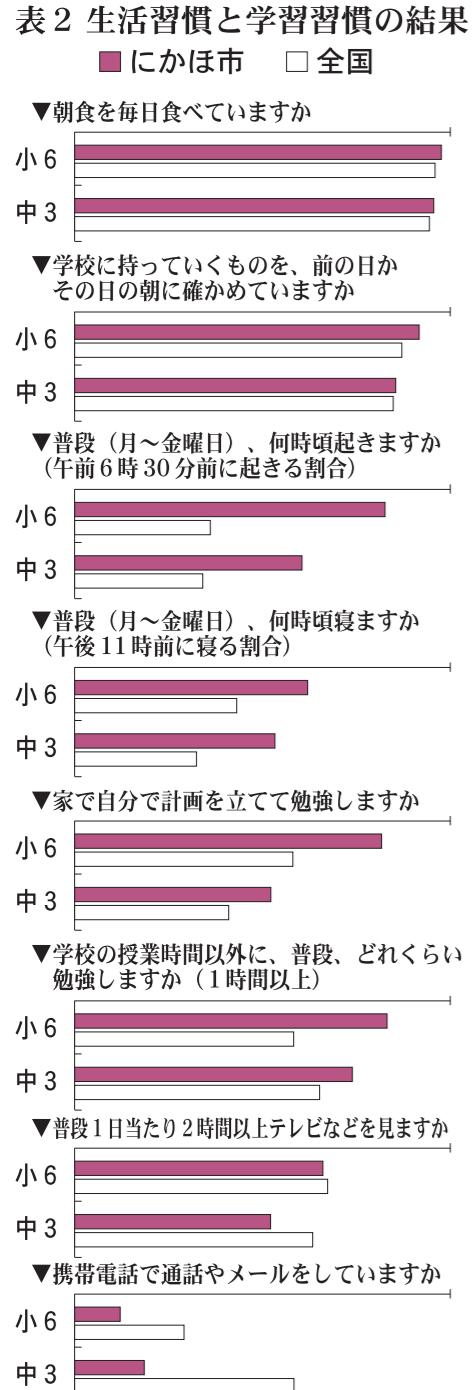
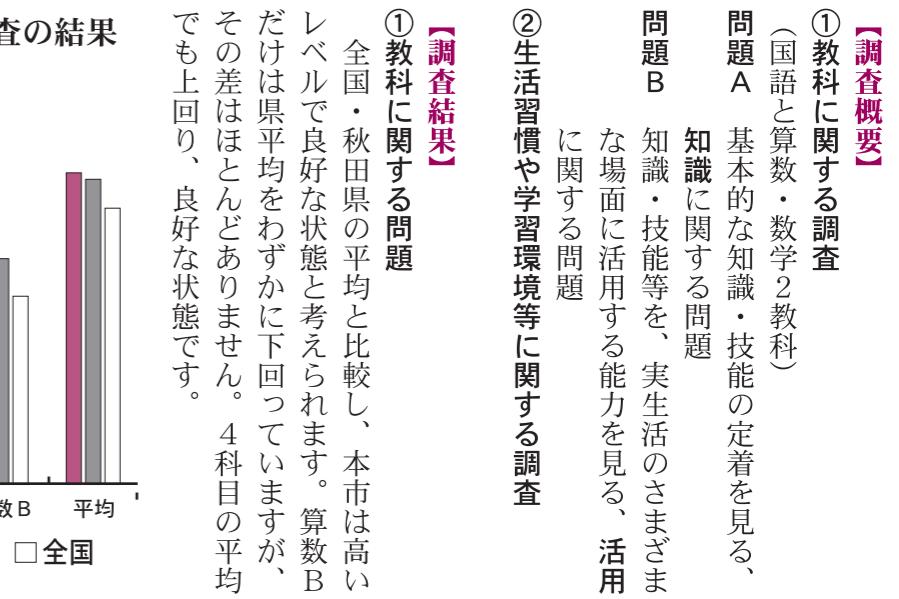
#### 【目的】

- 教育とその施策の成果、課題を検証し、改善を図る。
- 児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。



平成22年度  
にかほ市  
約30%対象  
小学校3校が対象  
全国から30%を抽出して実施（小学6年、中学3年）

| にかほ市の調査利用(H22) |     |         |       |
|----------------|-----|---------|-------|
|                | 学校数 | 抽出調査対象校 | 希望利用校 |
| 小              | 7   | 3       | 4     |
| 中              | 3   | 0       | 3     |



※生活習慣等の調査は選択問題で、文科省採点と自校採点の誤差が生じないため、にかほ市の全小・中学校のデータを用いた。

#### 【結果の考察～課題と対策～】

基礎的・基本的な内容の習得は図られています。思考力・判断力・表現力等を高める、いわゆる問題解決的な学習を推進してきた成果として、知識・技能を活用する力も身に付いてきたと言えますが、「自分で計画を立て、毎日家庭で2時間以上勉強する」児童生徒の割合が高くなっています。

にかほ市では、今後も継続して、教えることは徹底して教えるとともに、「考えさせる、判断させる、表現させる」バランスのとれた指導を充実させていくことで、「活用する力」を高めることが求められます。

にかほ市では、学力の基盤となる、生活習慣や学習環境が整っている児童生徒が多いと考えられます。ただし、携帯電話の使用やテレビなどの視聴時間が、増えている傾向にあります。

②生活習慣や学習環境等に関する問題  
全国平均と比較し、「朝食を毎日食べる」「学校への持ち物を確認する」「早寝・早起き」などを実践している児童生徒が多いことが分かります。「テレビなどの視聴時間」や「携帯電話に費やす時間」が比較的少なく、「自分で計画を立て、毎日家庭で2時間以上勉強する」児童生徒の割合が高くなっています。

文科省の分析では、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立が学力と関係する、と示されています。

正答率の高い児童生徒の傾向

・小学6年生と中学3年生  
平成19年度から21年度までは、全国の小学6年と中学3年の全児童生徒が対象でした。今年度は抽出調査・希望利用方式に変更。全国約30%の小・中学校が、ランダムに抽出されました。抽出された学校も、希望により調査を利用できます。

にかほ市では、小学校が3校（児童数で約70%）抽出され、残りすべての小・中学校は希望して調査を受けました。

